

(資料7-1)

ウルメイワシ対馬暖流系群に関する 資源管理の基本的な考え方

令和3年12月14日(火)
第3回資源管理手法検討部会
～ウルメイワシ対馬暖流系群～

水産庁

目 次

1. 資源評価の結果について

2. 関係地域の現状について

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見

(2) 各論に関する御意見

- ① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認
- ② 資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項
- ③ 検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項
- ④ 数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向
- ⑤ 数量管理以外の資源管理措置の内容(体長制限、禁漁期間等)
- ⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討
- ⑦ ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項
- ⑧ 管理対象とする範囲(大臣管理区分、都道府県とその漁業種類)

(3) そのほかの御意見

(4) 御意見や論点のまとめ(案)

4. 今後について

1. 資源評価の結果について

- 漁獲量は、1990年代後半から2000年にかけて1.0万トンまで減少したが、2001年以降は増加傾向にあり、2013年と2016年には5.0万トンをこえた。その後漁獲量は減少し、2020年は2.0万トンと大きく減少した。
- 資源の年齢組成を尾数で見ると、0歳を中心に構成されている。2020年の資源量は4.9万トンであった。
- 漁獲圧(F)は、1976～1978年は、MSYを与える水準を下回っていたが、1979年以降は増加し、ほとんどの年でMSYを与える水準を上回った。2015～2017年はFmsyと同程度か下回って推移したが、2018年以降はFmsyを上回ったと判断される。親魚量も2003年以降、最大持続生産量を実現する親魚量(SBmsy)を上回っていた。2020年は、漁獲圧がFmsyを上回り、親魚量がSBmsyを下回っている。

親魚資源量(2020年)・・・2.2万トン

案	目標管理基準値 (Target Reference Point: TRP) ≡回復・維持する目標となる資源水準の値	5.4万トン
	限界管理基準値 (Limit Reference Point: LRP) ≡下回ってはいけない資源水準の値	1.8万トン
	禁漁水準	0.2万トン

例えば。。

資源管理の目標:10年後に、50%以上の確率で目標管理基準値まで親魚資源を回復させること。

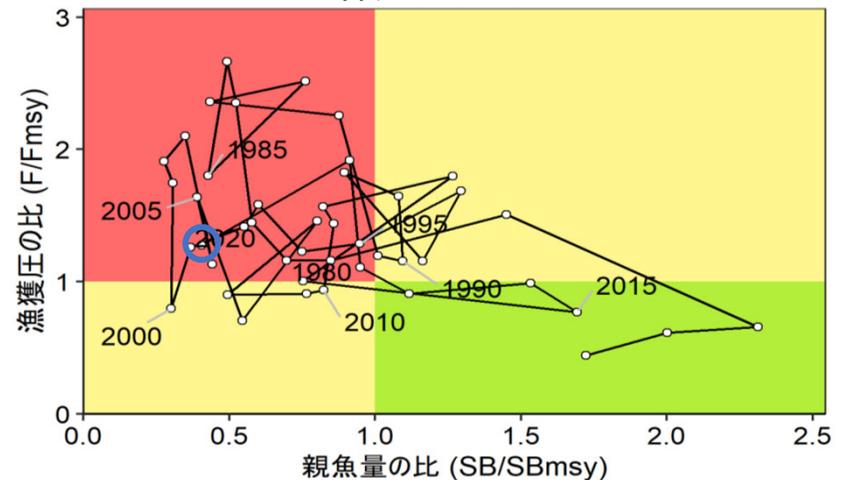
仮に、TAC管理を行う場合の将来の漁獲量の平均値

単位:千トン

資源管理の目標の達成確率

β	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	達成確率
1	33	30	35	35	35	35	35	35	35	35	35	42%
0.9	33	28	34	35	35	35	35	35	35	35	35	48%
0.8	33	26	33	35	35	35	35	35	35	35	35	54%

《神戸チャート》



2. 関係地域の現状について ～まとめ～

- 日本海から九州西岸にかけて分布し、沿岸域での分布が多い。産卵は、九州周辺水域ではほぼ周年、青森以南の日本海北部では春から夏にかけて行われる。
- 主にまき網、定置網、棒受網などで漁獲される。韓国でもウルメイワシを漁獲しているが、1990年以降、漁獲量は報告されていない。中国の漁獲量は不明である。

《分布図》



※資源評価上の境界線(農林水産統計の「瀬戸内海区」と「東シナ海区」の境界線)は、⑪: 福岡県北九州市旧門司漁業地区と田野浦漁業地区の境界と⑫: 山口県下関市下関漁業地区と壇ノ浦漁業地区の境界である。

《参考: 漁獲シェア表》

	3 か年平均					5 か年平均		
	H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1	H25-H29	H26-H30	H27-R1
大臣管理分合計	23.8%	22.0%	21.6%	17.8%	16.9%	22.1%	20.5%	18.6%
大中型まき網	23.8%	22.0%	21.6%	17.8%	16.9%	22.1%	20.5%	18.6%
その他の大臣管理区分	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
知事管理分合計	76.3%	78.0%	78.4%	82.3%	83.2%	77.9%	79.5%	81.4%
秋田	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
山形	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
新潟	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
富山	0.4%	0.5%	0.4%	0.2%	0.3%	0.4%	0.4%	0.3%
石川	1.1%	1.3%	1.0%	1.3%	1.6%	1.1%	1.3%	1.4%
福井	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
京都	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%
兵庫(日本海西)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
鳥取	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
島根	12.9%	7.0%	8.3%	10.9%	23.5%	10.7%	9.8%	17.0%
山口(東シナ海)	2.0%	1.6%	0.6%	0.3%	0.4%	1.4%	1.1%	0.5%
福岡(東シナ海)	0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.1%
佐賀	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
長崎	35.3%	42.4%	46.2%	47.2%	36.3%	40.9%	42.8%	40.8%
熊本	7.4%	7.9%	6.7%	7.4%	7.5%	7.1%	8.0%	7.0%
鹿児島	16.8%	17.0%	15.0%	14.8%	13.4%	16.1%	16.0%	14.1%
沖縄	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

2. 関係地域の現状について ～大中型まき網～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴

- 九州西部海域で操業する鹿児島県旋網漁業協同組合所属の大中型まき網漁船による漁獲が主体。
- 同組合所属の大中型まき網漁船の総漁獲量に占めるウルメイワシの割合は、約10%、周年混獲されるが、主な漁獲時期は8月から11月、サバ類、マアジ、マイワシ、カタクチイワシとともに漁獲されることが多い。
- 東シナ海、九州西部海域で操業する遠洋旋網組合所属の大中型まき網漁船、日本海で操業する大中型まき網漁船による採捕は、マイワシ、アジ、サバ類、ブリ等を漁獲する際の混獲がほとんど。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
23.8%	22.0%	21.6%	17.8%	16.9%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
22.1%	20.5%	18.6%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値
 ※大中まき網のシェアは魚績をベースに計算

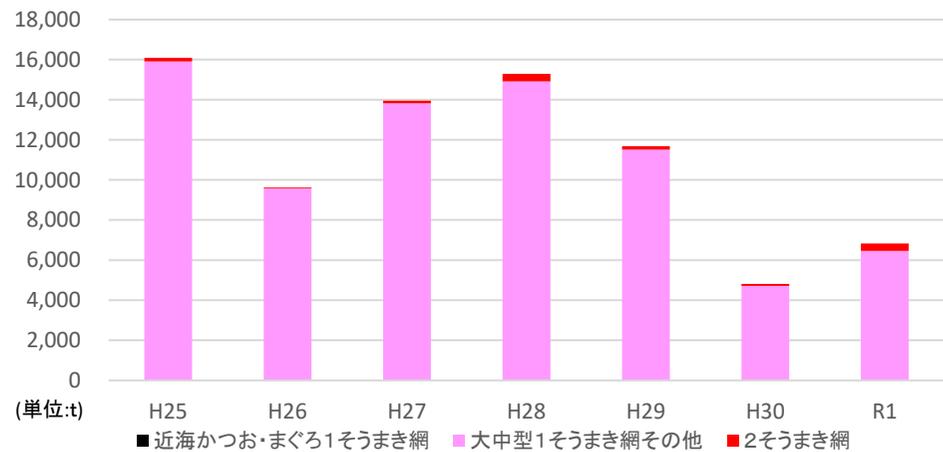
漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
近海かつお・まぐろ1そうまき網	17	6	9	18	1	17	*
大中型1そうまき網その他	15,888	9,577	13,812	14,890	11,511	4,697	6,453
2そうまき網	177	39	125	377	165	97	383

※全国での漁獲総計を記載

(単位:t 農林水産統計より)

*R1より近海かつおまぐろ1そうまき網がその他に吸収された



※公表データのみ使用

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 海域毎に許可隻数、操業海域等が制限されておりこの規制の下で操業。他魚種操業も含め、年間60～72日以上
の休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～新潟県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ほとんどが大型定置網での漁獲だが、小型定置網や底びき網、ごち網でもわずかに漁獲される。
- 上越及び佐渡東部内湾の大型定置網での混獲が大半。上越では年間を通して漁獲されるが2月～6月にかけての漁獲が多く、佐渡東部内湾では10～12月に漁獲される。
- 漁獲量の年変動が大きい。近年は減少傾向にある。
- 基本的に出荷対象ではなく、漁獲されても出荷個体を選別することが多く、漁獲量は資源量の指標にならない。

全体に占めるシェア

3か年平均

H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%

5か年平均

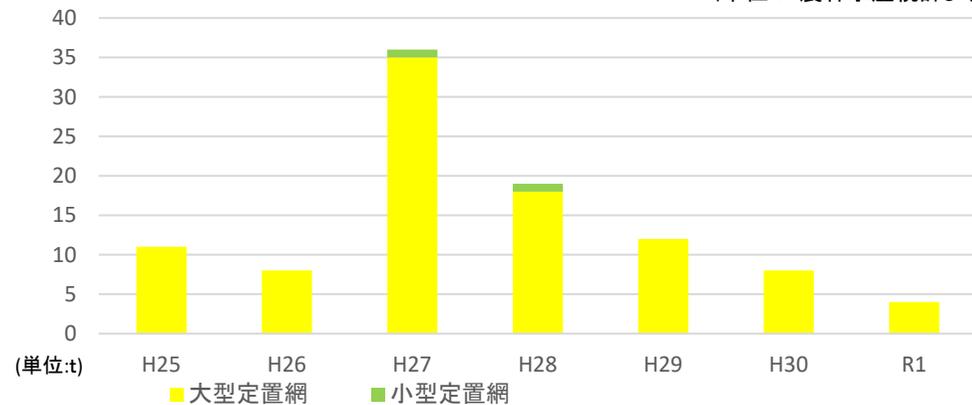
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	11	8	35	18	12	8	4
小型定置網	0	0	1	1	0	0	0
その他の網漁業	0	x	0	x	x	x	x
その他のはえ縄	0	0	0	0	0	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 本種を対象とした資源管理計画はないが、定置網の資源管理計画により、漁業者自身で設定した期間内に7～10日間の休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～富山県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ほとんどを定置網で漁獲。
- 周年漁獲されるが、例年1～5月の漁獲が多い。
- 漁獲努力量(大型定置網のか統数)は近年一定なので、漁獲量の変動は本県沿岸への来遊量に起因すると考えられる。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.4%	0.5%	0.4%	0.2%	0.3%

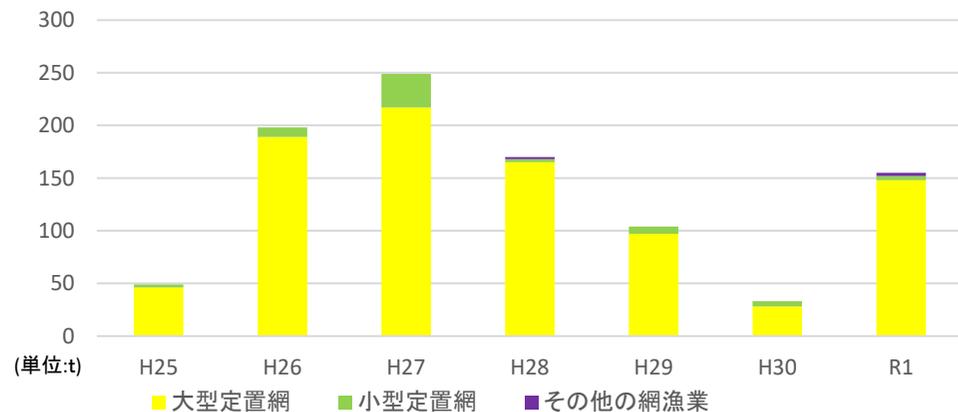
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.4%	0.4%	0.3%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	46	189	217	165	97	28	148
小型定置網	3	9	32	3	7	5	4
その他の網漁業	0	0	0	2	0	0	3
船びき網	x	0	x	x	x	0	0
その他のはえ縄	0	0	0	0	0	x	x
さけ・ます流し網	x	x	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、操業可能期間の3%以上の日数を休漁。

2. 関係地域の現状について ～石川県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 定置網、中型まき網による漁獲が主であり、狙って漁獲する対象とはなっていない。
- 近年は定置網では春先、中型まき網では夏頃に混獲される場合が多い。
- 漁獲量は年変動が大きい。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
1.1%	1.3%	1.0%	1.3%	1.6%

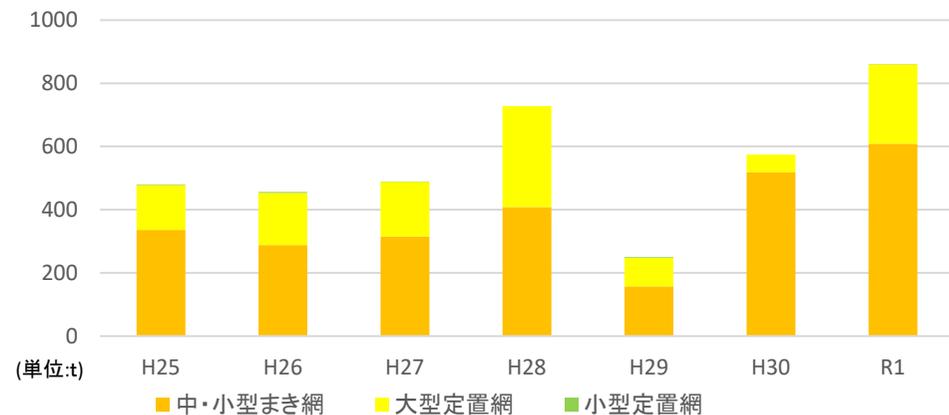
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
1.1%	1.3%	1.4%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	336	288	315	408	157	518	609
大型定置網	142	165	173	320	90	56	251
小型定置網	2	3	1	0	3	0	1
その他の網漁業	0	0	0	x	x	0	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画に基づく休漁及び網目の拡大等の管理措置を実施(ウルメイワシ以外の魚種と共通の管理措置)。

2. 関係地域の現状について ～福井県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲のほぼ全てが定置網による。
- 定置網では、8～11月の漁獲が年間漁獲量の約9割を占める。
- 来遊群による突発的な入網の有無が漁獲の主体となっているため、年変動が大きい。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

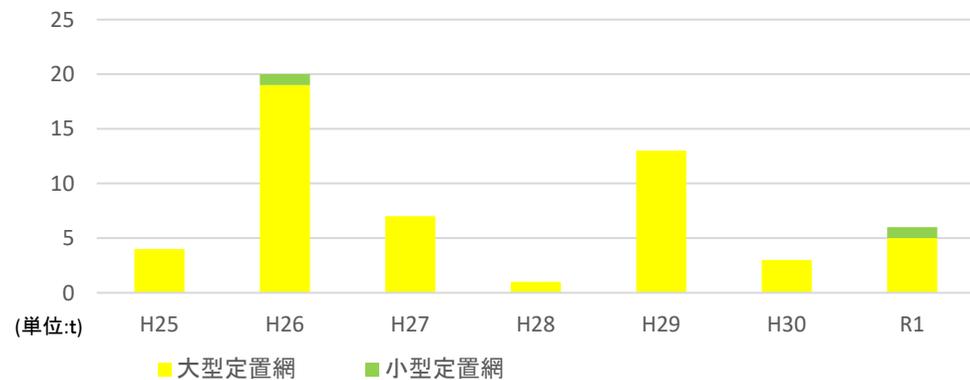
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	4	19	7	1	13	3	5
小型定置網	0	1	0	0	x	0	1
船びき網	x	x	0	0	0	x	0
その他の網漁業	0	0	x	x	0	x	0

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 漁獲努力量の削減のため、一定日数以上の休漁の実施(資源管理計画)。

2. 関係地域の現状について ～京都府～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ほぼ全てが定置網(大型)による漁獲。
- 周年漁獲され、8～11月までの秋期が主漁期であるが、年により2～3月の早春にもまとまった漁獲がある。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%

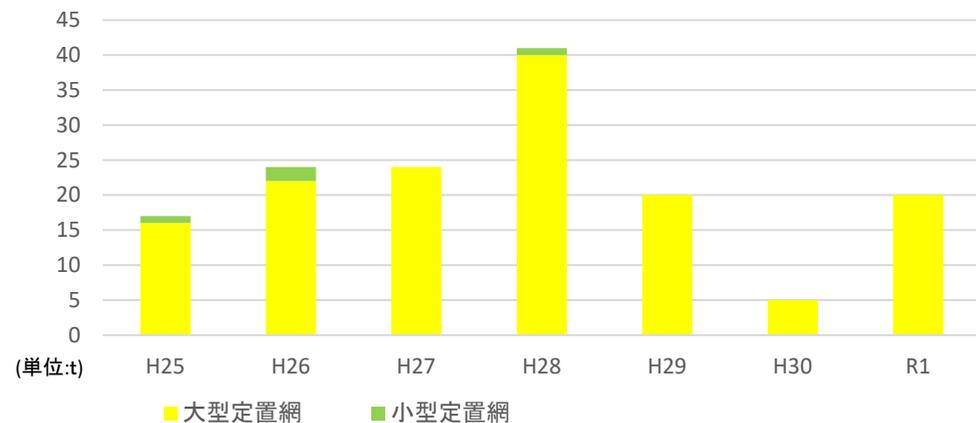
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.1%	0.1%	0.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	16	22	24	40	20	5	20
小型定置網	1	2	x	1	0	0	0
船びき網	x	x	0	0	x	x	x
その他の網漁業	x	0	0	0	x	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 定置網においては、資源管理計画による網上げ等を行っている(ウルメイワシに特化せず)。

2. 関係地域の現状について ～兵庫県（日本海西）～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 大型定置網による混獲が全体の9割程度を占めている。
- 年間を通じて混獲されている年、8月から12月頃に漁獲が多い年があるが、来遊状況等は不明。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

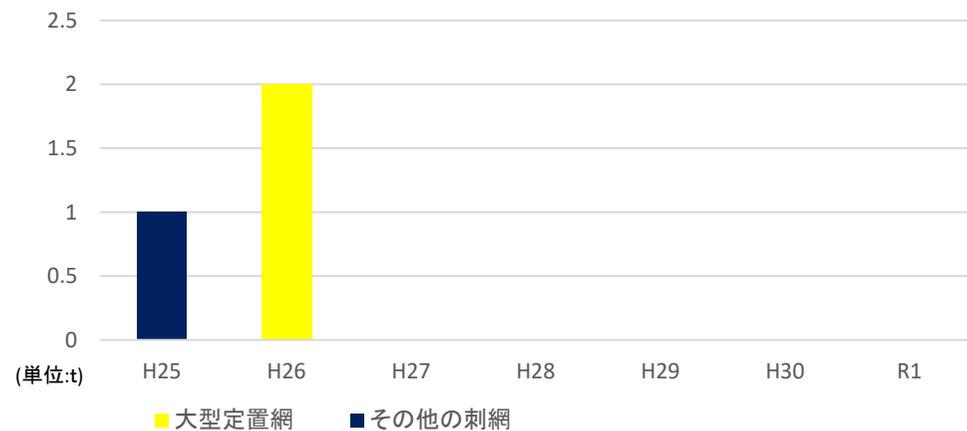
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
大型定置網	0	2	0	x	x	x	x
その他の刺網	1	0	0	0	0	0	0
その他のはえ縄	x	0	x	x	0	x	x
その他の網漁業	x	0	x	x	x	0	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 各地の資源管理計画において、定置網漁業では一定期間(2週間等)の網上げが実施されており、本種の資源管理にも一定寄与していると考えられる。

2. 関係地域の現状について ～島根県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲の98%以上が中型まき網。
- 中型まき網では他の魚種(マイワシ・マアジ・サバ類)を目的とした操業における混獲が主であり、春から秋にかけて漁獲される。
- 来遊状況による漁獲量の年変動が大きく、令和元年はおよそ1万5千トンの漁獲があった一方で、平成26年は2千トンに満たない漁獲。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
12.9%	7.0%	8.3%	10.9%	23.5%

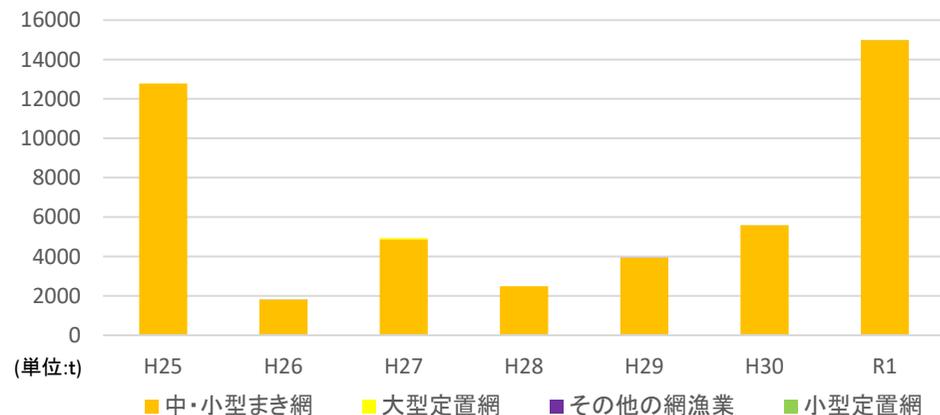
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
10.7%	9.8%	17.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	12,778	1,797	4,870	2,487	3,935	5,582	14,983
大型定置網	13	21	69	x	x	x	x
その他の網漁業	0	1	0	0	2	0	0
小型定置網	x	x	x	x	x	1	1

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 中型まき網において他の魚種を含めた形で、週1日の休漁措置を行っている。

2. 関係地域の現状について ～山口県（東シナ海）～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 令和元年の漁獲は195トンであり、その他の網漁業(棒受網主体)、中型まき網が主に漁獲。
- 棒受網では8～10月が主漁期であり、塩干品向けの0歳魚が漁獲の主体。
- 近年の漁獲量の減少は、沖合に漁場が形成されるウルメイワシを狙う漁業者の減少の影響も大きいと思われる。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
2.0%	1.6%	0.6%	0.3%	0.4%

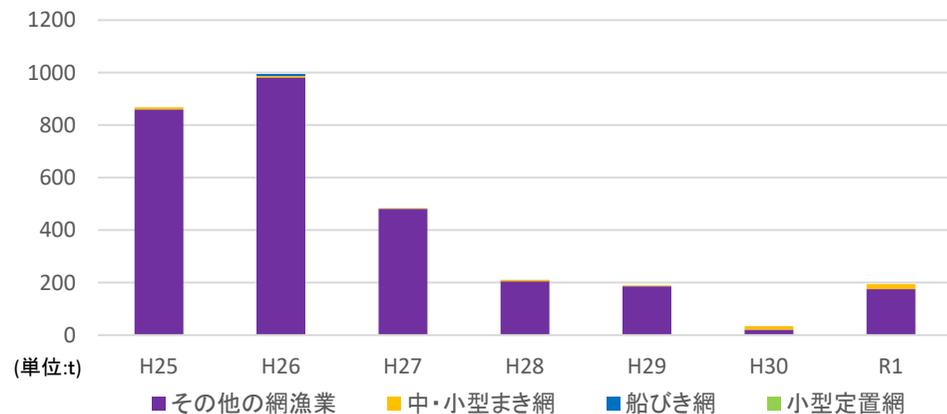
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
1.4%	1.1%	0.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
その他の網漁業	860	982	481	205	186	21	175
中・小型まき網	8	7	2	5	3	13	19
船びき網	0	5	0	0	0	0	0
小型定置網	0	0	1	1	0	0	0
ひき縄釣り	0	0	x	x	x	x	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 棒受網・すくい網漁業、船びき網漁業で資源管理計画に基づく曜日休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～福岡県（東シナ海）～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 中型まき網漁業による漁獲が主体。
- 他の浮魚類(マアジやマサバ)の混獲が中心であり、平成25～30年は5～8月に漁獲が多く、令和元年は10、11月にも漁獲。
- 沿岸域への来遊状況により、年によって漁獲量が変動。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%

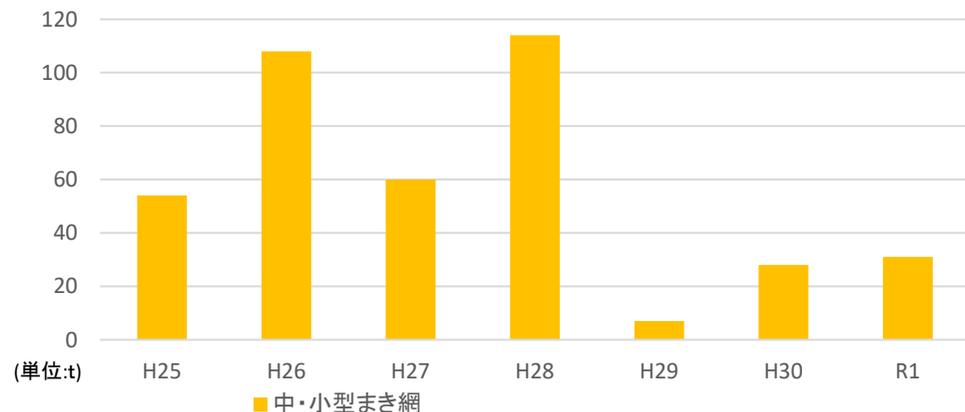
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.2%	0.2%	0.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	54	108	60	114	7	28	31
その他のはえ縄	x	x	x	x	x	x	x
その他の網漁業	0	0	x	x	x	x	x
小型定置網	x	x	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 知事許可漁業の操業条件により、操業期間や操業区域、電気設備の制限、付属船の隻数及び合計総トン数を制限。
- 資源管理計画により、中型まき網では毎月3～5日間の休漁。

2. 関係地域の現状について ～佐賀県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 9割以上が定置網、ごくまれにその他の網漁業でも漁獲される。
- 定置網では年間を通じて混獲されるが、6～7月及び11～1月に多く漁獲される。
- 近年は、恒常的に漁獲されているわけではなく、短期間な大量入網があることが多い。
- ここ数年は漁獲が横ばいから減少傾向にあるのは、来遊が減ったことであると推察される。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

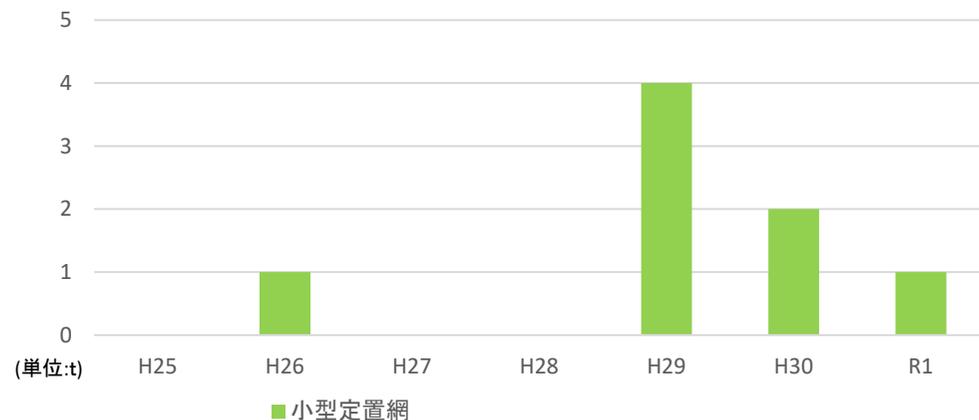
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型定置網	0	1	0	0	4	2	1
大型定置網	x	x	x	x	x	x	x
その他のえ縄	x	x	0	x	x	x	0
中・小型まき網	x	x	0	0	0	0	0
ひき縄釣り	0	0	0	0	0	0	x

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 小型定置網漁業の定期休漁(資源管理計画)。

2. 関係地域の現状について ～長崎県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- ほとんどを中型まき網、その他に小型まき網、定置網などで漁獲。
- 近年の漁獲量は漁場形成の変化等の影響で変動が大きく約1～3万トンで推移している。
- 中型まき網では主に他の浮魚類狙いの混獲であるが、狙って漁獲する場合もある。4～7月には主に1～2歳魚、8～10月には主に0歳魚の漁獲が多い。10月下旬以降は魚体に脂が乗るため煮干しの原料を目的とした漁獲は減る。
- 混獲時の浮魚類の組成は同海域であっても投網毎に様々である。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

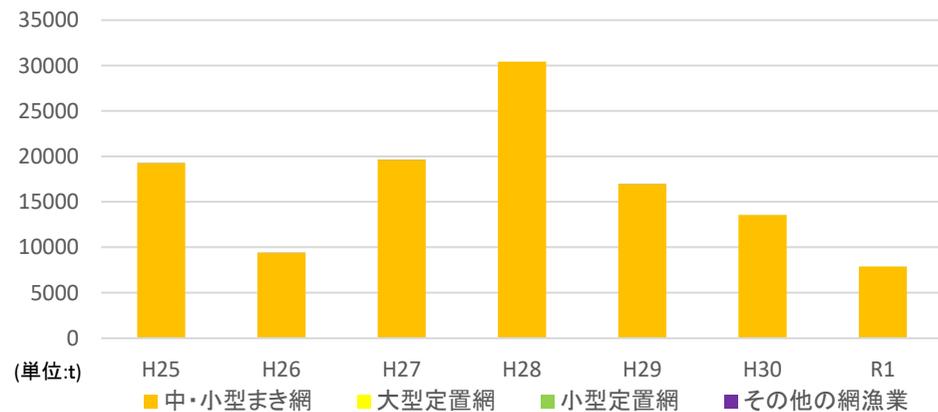
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
35.3%	42.4%	46.2%	47.2%	36.3%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
40.9%	42.8%	40.8%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	19、 260	9、 369	19、 617	30、 406	16、 958	13、 543	7、 868
大型定置網	15	20	2	3	22	29	20
小型定置網	16	5	17	7	11	6	7
その他の網漁業	1	1	1	0	1	0	0
さんま棒受網	0	x	x	x	x	x	x
沿岸まぐろはえ縄	0	x	x	x			

(単位:t 農林水産統計より)



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画に基づき中・小型まき網では年間48日以上(原則、月に4日以上)、定置網では漁場毎に定めた期間の休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～熊本県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 主にその他の網漁業の大部分を占める棒受網漁業により漁獲する。
- 棒受網漁業では主に6～8月に漁獲する(1歳魚が中心)。
- ここ数年漁獲量が減少しているのは、来遊量や漁獲努力量の減少のためと考えられる。

全体に占めるシェア

3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
7.4%	7.9%	6.7%	7.4%	7.5%

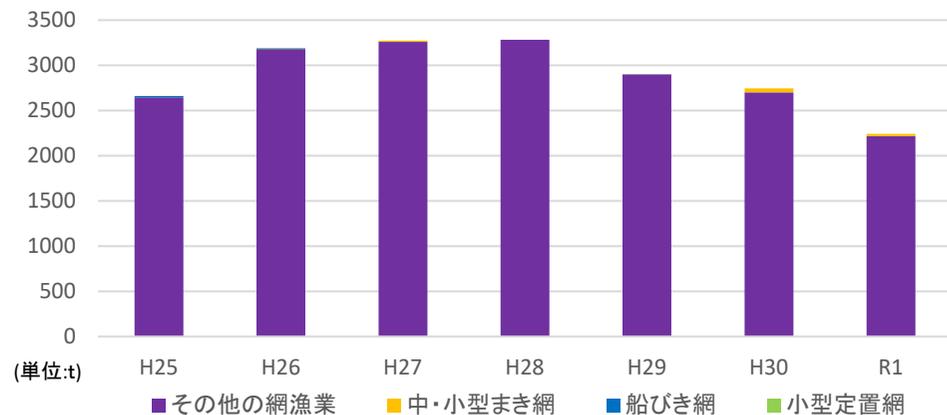
5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
7.1%	8.0%	7.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
その他の網漁業	2、 645	3、 180	3、 260	3、 283	2、 900	2、 700	2、 216
中・小型まき網	0	0	13	0	0	46	26
船びき網	15	9	0	0	0	0	0
小型定置網	1	4	0	0	1	0	0
大型定置網	x	x	x	x	x	x	x
ひき縄釣り	0	0	x	x	x	x	0
沿岸まぐろはえ縄	x	0	0	0	0	0	0

(単位:t) 農林水産統計より



※公表データのみ使用(xの内訳は使用していない)

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、棒受網漁業は月6日の休漁を行っている。

2. 関係地域の現状について ～鹿児島県～

ウルメイワシを漁獲する漁業の特徴(大臣許可漁業を除く)

- 漁獲の約7割が中・小型まき網、約3割が棒受網。
- 年によって変動があるが、概ね夏～秋が漁獲のピーク。
- 主に鮮魚or加工原料向け。

全体に占めるシェア

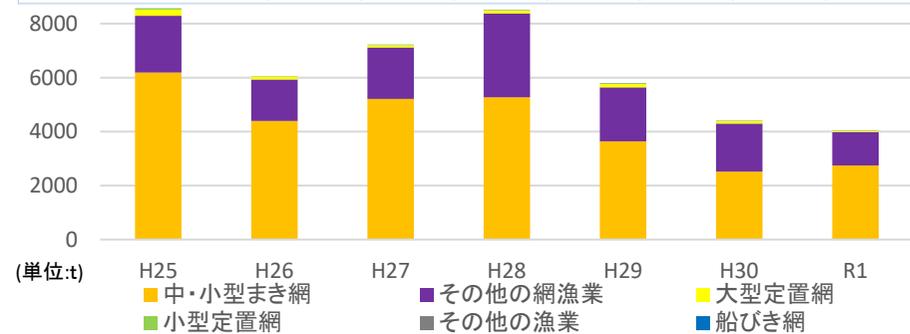
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
16.8%	17.0%	15.0%	14.8%	13.4%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
16.1%	16.0%	14.1%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

漁業種類別 漁獲実績

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	6、 190	4、 397	5、 210	5、 274	3、 637	2、 515	2、 744
その他の網漁業	2、 108	1、 537	1、 913	3、 105	2、 002	1、 782	1、 236
大型定置網	226	108	83	102	132	91	40
小型定置網	38	19	25	29	23	20	12
その他の漁業	0	0	0	1	2	2	2
船びき網	1	0	0	0	1	0	0
沿岸まぐろはえ縄	x	x	x	x	(単位:t 農林水産統計より)		
その他のはえ縄	0	0	x	0	0	0	0



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 日西・九西マアジ等広域資源管理方針において、鹿児島県旋網漁業協同組合として、1ヶ月の水揚げ日数18日以内、月5日休漁に取り組んでいる。
- 資源管理計画により、まき網漁業、棒受網漁業において月5日間休漁、定置網漁業において魚取り部の網目制限や網上げを伴う休漁に取り組んでいる地区がある。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (1/3)

- 全体
 - 漁獲量の年変動や地域間の差異が大きいことを考慮した柔軟な管理制度が必要。また、配分数量の融通や留保の再配分が迅速にできるなどの枠組みが必要。
 - TAC導入については、資源評価の精度、信頼性、漁獲特性、TACの運用方法等に課題があり、様々な議論を深め、現場への丁寧な説明を求める。現時点では議論が尽くされていないと認識している。
 - 漁業への影響を最小限にするよう柔軟な運用策を準備する必要。
- まき網
 - 混獲が主体で漁獲量変動が大きいと、ウルメイワシのTAC配分によって、もともと狙っている魚種の操業が制限されてしまうことが懸念。柔軟に管理を行えるようにすべき。
 - 資源評価の精度・信憑性に疑問。水産庁は資源評価が途上であることを認識した上で、TACを決定して欲しい。
 - 漁業経営への影響なども考慮すべき。操業が制限された場合、経営に深刻な打撃を受ける。
- 棒受網
 - カタクチイワシ及びウルメイワシの資源量について、減少傾向にあると考えられる。
 - イワシ類の資源量の変化により、他魚種の資源量にどのように影響するのか教えていただきたい。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	<p>石川県沖合にて、中型まき網により当該対象資源を漁獲している。</p> <p>当該対象資源は、単価も安く、基本的に漁獲は、マイワシ狙いの際に混ざりて漁獲されることが大半を占める。</p> <p>ウルメイワシの数量上限により、主対象資源であるマイワシが漁獲可能な数量があるにも関わらず操業を中止するということがないように管理について検討が必要。</p> <p>現在マイワシ対馬暖流系群がTAC魚種であり、数量明示県となっている中で数量管理を行っているところ、マイワシ資源が増加した際にウルメイワシの漁獲が当然増加する可能性もあり、目安数量管理であった場合でも前年同の数量の維持は難しい。むしろ数量明示である管理が望ましいことも検討していくべきだが、その際には数量の融通、留保枠の再配分が迅速にできるなどの枠組みの設置が必要。</p>

3. 本部会で議論する事項について (1) 全体に関する御意見 (2/3)

参考人からの御意見	御意見の内容
島根県まき網漁業協 議会 副会長	<ol style="list-style-type: none"> ① TAC魚種の追加をはじめとする資源管理の変革に対し、多くの漁業者が不安を感じている。真に必要な資源管理については、現場の漁業者としても真摯に向き合う必要があると思っているが、果たして関係する全ての漁業者が「新たな資源管理の理念や手法」について十分に理解し、同じ方向性を共有していると言えるだろうか。水産庁は「新たな資源管理の推進にあたっては、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進める」としているが、十分な説明、現場把握、関係者との議論が尽くされたとは感じていない。将来に漁業・資源を繋げるためには、多くの漁業者関係者による様々な議論を深めることが重要であり、新型コロナウィルスによる未曾有の国難の中、現時点ではそのような議論が尽くされていないことを十分に認識していただきたい。 ② 資源評価の結果がTACに直結することから、水産研究・教育機構等においては、漁業者が持つ現場の情報も積極的に収集し、引き続き、資源評価の精度向上に努めていただきたい。一方で、現在の資源評価に用いられている漁業情報や調査データが十分でない魚種もあり、資源評価の精度や不確実性への懸念を持っている。水産庁においては、資源評価が途上であることを認識した上で、TACを決定していただきたい。 ③ TAC総量の設定に当たっては「資源」のことだけではなく、「漁業経営」のことも念頭に入れて議論すべきである。ウルメイワシは、生鮮向け、加工向け、養殖用餌料向けに広く利用されており、養殖業・水産加工業・流通業など、多くの産業が本資源をはじめとする浮魚類の水揚げに関連している中、漁業者が生産するMSYにニーズ・処理能力があるのか、どれだけの水揚げ金額が想定され、それによりどれだけの数の経営体の経営が成り立つかを考慮しなければならない。将来に資源を残したとしても、それを利用する漁業経営体が残らない結果になれば、新たな資源管理の成功事例を積み上げていくことに繋がらないと考える。
野母崎三和漁業協 同組合 代表理事 組合長	<p>まき網漁業の性格から、マイワシ、カタクチイワシやウルメイワシ、アジ類やサバ類との混獲が年間漁獲の8割を占める中、数量管理の煩雑さや困難さをどのように解決していくか検討が必要である。</p>
九十九島漁業協同 組合 理事	<p>ウルメイワシは、魚価が良い時期などに専獲する場合もあるが、通常はマイワシ、カタクチイワシの混獲魚種であり、TACにより漁獲制限されることがあれば、操業そのものができなくなるなどの影響が出かねず、経営に深刻な打撃を受ける。</p>
天草漁業協同組合 副組合長	<p>カタクチイワシ及びウルメイワシの資源量について、減少傾向にあると考えられる。イワシ類3種(マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシ)いずれかの資源量変化は、他魚種の資源量にどのように影響するのか教えていただきたい。</p> <p>カタクチイワシ、シラスそれぞれの資源管理手法を提示していただき、漁業者間での摩擦や疑義が生まれないよう、丁寧な説明をお願いしたい。</p> <p>TACによる数量管理が提示された場合、県内の地域への配分はどの機関が行うのか教えていただきたい。</p>

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (3/3)

参考人からの御意見	御意見の内容
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	<p>TACの導入にあたっては、先行実施した魚種の問題点や課題を検証し、解決策を検討したうえで行うべきである。</p> <p>ウルメイワシの資源評価については、同一系群を利用していると思われる韓国、中国の漁獲データを反映していないことから、精度、信頼性に懸念がある。</p> <p>ウルメイワシの漁獲は混獲が主体であることから、TACが設定され、ストップが掛かった場合、まき網漁業の操業全体に支障をきたす懸念がある。</p> <p>ウルメイワシの漁獲量の増減は、単に資源量の増減だけではなく、単独又は他の魚種の漁場形成の有無、市場価格等が複雑に関連することから、TAC導入に際しては十分な事前検証が必要である。</p> <p>県全体の漁獲データを迅速に収集し、情報共有する体制が未整備であり、漁獲可能性が逼迫した場合の制限措置や追加配分等の対応が難しい。</p> <p>以上のことから、ウルメイワシのTAC導入については、資源評価の精度、信頼性、漁獲特性、TACの運用方法等に課題があり、性急に進めるべきではないと考えるが、仮に導入する場合は、漁業への影響を最小減にするよう柔軟な運用策を準備したうえで対応する必要がある。</p>
エテルナ・ワコー株式会社 代表取締役	<p>ウルメイワシは、漁場形成の時期や場所によりマアジ、サバ類、イワシ類と混獲されている。ウルメイワシTACが低く設定された場合、マアジやサバ類、イワシ類の操業が過剰に制限されることが予想され、まき網漁業の経営が成り立たなくなる恐れがある。</p> <p>TACの導入に当たってはこの問題の抜本的改善が必要である。</p> <p>TAC魚種の拡大にあたっては、先行して実施した魚種の問題点や課題を整理するとともに、改善を図ったうえで取り組むべきである。</p> <p>広域のTAC管理を行ううえでは漁獲情報の迅速な収集と関係者間の共有が必要となるが、現行では未整備である。</p> <p>資源評価で漁獲データは重要な要素であるが、同一系群でも外国の漁獲データを入手困難として除外して資源評価が行われており、資源評価への信頼性、精度に懸念がある。</p> <p>ウルメイワシのTAC管理導入については、必要性、資源評価の精度・信頼性、管理方法、漁業経営への影響などの懸念も多いことから、拙速に導入することなく、慎重な対応をお願いする。</p>
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	<p>本県では、ウルメイワシは主に中・小型まき網漁業、定置網漁業等で漁獲されており、それらの漁法は免許漁業や県漁業調整規則に基づく知事許可漁業であり、本県は免許・許可庁として適切に漁業を管理する必要がある、ウルメイワシがTAC管理になれば、本県は当該魚種の漁獲実績がある都道府県全体の漁獲量のうち80パーセントの漁獲量を構成する漁獲量上位県に当たり、数量管理となった場合、国から明示される知事管理漁獲可能性を適切に管理する必要もある。</p> <p>本県で漁獲しているウルメイワシは、国内漁獲量のおよそ3割を占め、その多くは魚類養殖の餌として利用されるとともに、一部は鮮魚出荷や煮干加工向けとして活用している重要資源である。</p>

3 (2) 各論に関する御意見

①検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認 (1/2)

● 全体

- 混獲や自社加工・地元加工、市場を通さない直接取引があり、正確な漁獲量の把握が困難。正確な計量には漁業者や市場関係者等の負担が大きい。デジタル化による情報収集体制の構築や技術開発等も必要ではないか。
- 県内の情報共有や漁獲報告体制が未整備である。市場、漁業者、漁協、JAFICが一元的に管理、運用するシステムが必要。また、資源評価の制度向上のため、CPUEの把握等さらなる調査が必要。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	混じりの魚種のため、マイワシと一緒に水揚げされる場合にはどうしても正確な数量の把握が困難。(割合など)魚探等による判別や正確かつ簡便な選別、計量等のための技術開発が必要。
島根県まき網漁業協議会 副会長	資源評価の精度向上のためには、主要漁法のCPUEの把握が重要であるが、それが十分に把握され、既に資源評価に活用されているか否かを教えていただきたい。 また、島根県の中型まき網においてはウルメイワシが専獲されることが少なく、他の浮魚類と混じって漁獲されることが多いが、大量の漁獲物の魚種構成比を漁業者や市場が迅速に計測する負担が大きい。漁業情報の収集を漁業現場だけに強いるのではなく、資源を評価する側の研究機関においても現場の漁獲実態を正確に把握できるよう、今以上に高頻度での十分な調査を行うべきと考える。
野母崎三和漁業協同組合 代表理事 組合長	マイワシやカタクチイワシとの混獲による漁獲後、販売システムは無選別のままスケール販売という方法をとることが多く、毎回の混獲割合を確認する担当を、誰が担うか、また現在の仕切書作成システムには混獲割合を入力するようになっていないので、デジタル化による収集体制を再構築する必要がある。
九十九島漁業協同組合 理事	ウルメイワシの一部は、水揚げ直後に自社または地元加工業者で煮干しに加工されるため、正確な漁獲量の把握は難しい。
天草漁業協同組合 副組合長	カタクチイワシ及びウルメイワシは専獲対象でなく、小型まき網漁業や棒受網漁業により混獲されることが多い。漁獲量が数量管理の上限に近づいた場合、現場の漁業者はどのように対応すればよいのか教示していただきたい。 系群内の各県ごとの資源量又は漁獲シェア率を教示していただきたい。
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	県全体の漁獲量を迅速に把握し、情報共有する体制は未整備である。
エテルナ・ワコー株式会社 代表取締役	現行のTAC種は、市場仕切書(FAX) ⇒ 漁業経営体(メール) ⇒ 所属団体(TACシステム) ⇒ JAFICのルートであるが、操業漁場により複数の市場に水揚げが行われており、現状でも負担となっている。TAC魚種を拡大する際は、現行ルートのままでは、現場の負担が増大し、数量管理への対応が難しい。 混獲状況も含む水揚データを、市場、漁業者、組合、JAFICが一元的に管理、運用するシステムが必須。

3 (2) 各論に関する御意見

① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認 (2/2)

意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	本県で水揚げされたウルメイワシの一部は、水揚げ直後に自社又は地元加工業者で煮干しに加工されることから正確な漁獲量の報告が難しい形態となっている。適切な数量管理を行うにあたっては漁業者に漁獲報告の制度等を丁寧に説明し理解を得る必要がある。

3 (2) 各論に関する御意見

②資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項

- 全体
 - 現状、中国・韓国の漁獲量が考慮されていない資源評価の精度・信頼性に懸念。資源評価の精度向上のため、外国漁獲量の把握や調査の拡充を行うべき。
 - 気候変動等による資源の増減に合わせて、資源管理目標の柔軟な見直しができるようにするべき。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	資源評価に用いられているデータを明示するとともに、そもそも情報量として足りているのか、よく精査すべき。既存TAC魚種(例えばマイワシやマアジ)と比べても少ないように感じるため、評価や調査の拡充を行うべきではないか。
島根県まき網漁業協議会 副会長	本資源は島根県の中型まき網では他の浮魚類に混ざって漁獲されることがほとんどであり、「混獲魚種」と言える。狙って漁獲している魚種ではなく、他の魚種の漁場形成があれば、漁業経営上も、陸上の産業にとっても当該資源の重要度はそれほど高くはないため、資源量の増減に伴い水揚げが多少増減しても大きな影響はないと言える。そのため、本資源についてはMSYベースの資源評価に基づく資源管理により、安定した水準の水揚げを目指す必要性は低いと考えられ、数量管理以外の漁獲努力量等による管理とすることも検討しても良いのではないか。
野母崎三和漁業協同組合 代表理事 組合長	イワシ類の資源量は年により変動が激しく、漁業者への信頼度がある目標を設定することができるか。
九十九島漁業協同組合 理事	韓国・中国との共通資源であると考えるが、漁獲量の報告がない韓国・中国が資源管理をしないのに、なぜ日本だけが先んじて資源管理に取り組まなければいけないのか、何度説明されても理解に苦しむ。
天草漁業協同組合 副組合長	中国や韓国の漁獲量は資源管理目標に影響するのか。留保枠をどの程度確保するのか。また、その判断基準を御教示いただきたい。
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	周辺国の漁獲量の正確な把握や、それを含めた資源評価ができるか？ 気候が変化した場合(温暖化等)、目標を柔軟に見直しできるか？
エテルナ・ワコー株式会社 代表取締役	資源評価の精度・信頼性に懸念がある。必要なデータそろえた上で精度の高い資源評価を関係者にわかりやすく丁寧に説明し、関係者の理解と納得を得た上で資源管理目標を導入すべきである。
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	ウルメイワシ対馬暖流系群は、韓国、中国ともに利用している資源であると考えられているが、現状、両国の漁獲データが報告されておらず、日本を含む3国間の漁獲量のシェアがどの程度なのか不明のままでは、日本だけが当該魚種の資源管理を行うことの妥当性に疑義が生じるため、まずは両国のデータ収集に努め、この課題が解決され漁業者の十分な協力と理解が得られた後に数量管理が導入されるべきである。

3 (2) 各論に関する御意見

③検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項

- 全体
 - 主漁獲対象魚種の操業に影響が出ないよう、毎年一定水準以上のTACが担保されるシナリオや初めは緩やかな管理とし、回復してきたら徐々に強めるようなシナリオなど、漁業現場の意見を十分に取り入れた漁獲シナリオとすべき。
 - 各海域での 30 年間の漁獲実績及び漁獲努力量の推移を考慮すべき。
 - 日本が我慢をして、周辺国が得をするような形にはしないで欲しい。
 - シラスを資源評価及び資源管理に考慮するべきか。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	当該資源の特性(漁獲される漁法、年変動など)をよく踏まえ、目標の達成時期についても10年以上と決め打ちすべきでなく、シナリオの選択においても、マイワシ対馬やズワイガニA海域のように現場実態の話をよく聞き、現場での理解も得た上での、柔軟な対応が必要。
島根県まき網漁業協議会 副会長	本資源は混獲魚種であることを考慮し、主漁獲対象魚種の操業に影響が出ないよう、毎年一定水準以上のTACが担保されるシナリオとする必要がある。
天草漁業協同組合 副組合長	各海域での 30 年間の漁獲実績及び漁獲努力量の推移を考慮すべき。 シラスを資源評価及び資源管理に考慮するべきか。 急激な収入減少を軽減する弾力的な措置をお願いしたい。
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	管理を始めた最初の時期に、急に漁獲が減らないようにしてほしい。初めは緩やかな管理とし、回復してきたら徐々に強めるような形にほしい。 我慢をしたのにシナリオ通りに回復しなかった場合、生活を保障してくれるのか？ 日本が我慢をして周辺の国が儲かるような形にならないようにしてほしい。
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	上記②に記載した課題の解決が大前提であるが、仮に数量管理を導入するとしても、日々漁業の現場でウルメイワシに向き合っている漁業者の意見を汲み取った資源評価並びに漁獲シナリオの導入が優先されるべきと考えており、その際は、漁家や関連業者の経営継続にも配慮した漁獲シナリオの導入を強く望むものである。

3 (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向 (1/2)

- 全体
 - 意図しない混獲により、操業停止とならないように国の留保を設定し、迅速な追加配分等柔軟な運用を行って欲しい。
 - TAC管理の導入は、放流技術の開発や休漁補償等の影響緩和策と合わせて慎重に議論する必要。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	課題については、先に記載のとおり(3(1)参考) 関係者合意や、融通といった柔軟で迅速なTAC管理の運用。 魚探の精度向上(おおよその魚種判別)による回避
島根県まき網漁業協議会 副会長	<p>本資源は混獲魚種であり、1網に混ざって入る複数種類の魚から洋上で当該魚種だけを選別し、放流することは現在のところ不可能に近く、単一魚種に絞って漁獲量をコントロールすることが極めて困難である。</p> <p>中型まき網の主対象魚種のほとんどが既にTAC対象魚種となっており、複数の混獲魚種もTAC追加候補魚種になっている。中型まき網は操業区域が自県沖合に限定されることから漁場移動に限界があり、魚種転換を円滑に行うことにも限界があると感じている。</p> <p>今後、採捕される多くの魚種がTAC対象魚種となった場合、さらに難しい操業を強いられ、混獲魚種のTAC遵守のためだけに操業そのものを休漁するようなことは経営上受け入れ難いと考えている。</p> <p>安易なTAC対象魚種への追加は漁業経営に多大な影響が出る恐れがあるため、放流技術の開発や休漁補償等の影響緩和策と合わせて慎重に議論する必要がある。</p>
野母崎三和漁業協同組合 代表理事 組合長	「① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認」と同じ
九十九島漁業協同組合 理事	ウルメイワシは、マイワシ、カタクチイワシ、アジ、サバ等との混獲が多いため、混獲を回避することが難しい魚種であり、数量管理の困難さを伴っており、意図しない混獲であっても上限に達した場合は、操業そのものができなくなるなどの影響が出かねない。これらの問題をどう解決していくのか、現場で混乱が生じないような円滑な資源管理が行われるべきである。
天草漁業協同組合 副組合長	混獲による予期せぬ漁獲が危惧されるため、数量管理数の上限を超えた場合の留保枠を確保すべき。年によって漁場や漁獲量の変動が大きい、留保枠を配分する場合、これらの変動をどのように考慮すべきか。
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	沿岸漁業は魚群を追いかけて広範囲に移動して操業することができないので、なるべく沿岸漁業に配慮した内容にしてほしい。沿岸漁業に配慮した、留保枠の柔軟な運用を検討してほしい。

3 (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向 (2/2)

参考人からの御意見	御意見の内容
エテルナ・ワコー株式会社 代表取締役	混獲主体の魚種のTAC管理のあり方は十分な検討が必要 同時に漁獲される魚種の操業が過剰に規制される懸念がある。 漁獲情報の迅速な収集と関係者間の共有が必要(①に記載) 漁場形成によって漁獲が過去の実績以上に積み上がる可能性があり、操業への影響を緩和するため、迅速なTAC、国留保枠の配分がのぞまれる。
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	本県では、ウルメイワシの多くは混獲により漁獲され、漁場においては狙っていないにもかかわらず入網する場合がしばしば発生し、混獲回避をすることが困難な魚種であり、数量管理が技術的に非常に難しいことを示唆している。このため、意図しない混獲であっても数量管理の上限に達した場合、まき網等の操業が規制される事態が発生することが想定される。ウルメイワシの数量管理を行う場合には、混獲という漁獲管理の困難性を考慮し、漁獲量が一定水準に達した場合は、国の留保枠から追加配分を行う等により円滑な資源管理が行われるべきである。

3 (2) 各論に関する御意見

⑤数量管理以外の資源管理措置の内容（体長制限、禁漁期間等）

- 全体
 - 一定期間や水揚げ日数上限の設定による休漁。
 - サイズによる獲り分けは困難。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	休漁期間の設置
島根県まき網漁業協議会 副会長	中型まき網においては漁場移動が考えられるが、本資源は混獲魚種であるため、数量管理以外の資源管理措置を行う場合にあっては主漁獲対象魚種の操業への影響を考慮する必要がある。 (注: サイズ別の獲り分けは困難)
野母崎三和漁業協同組合 代表理事 組合長	資源管理計画に基づき中型まき網では年間48日以上(原則、月に4日以上)の休漁を実施している。また、小型魚に対しては漁場移動を行うことで漁獲圧を下げることを行っている。
九十九島漁業協同組合 理事	当地域における中型まき網漁業の資源管理計画に基づき、年間48日以上(月に4日以上)の休漁を実施している。
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	まき網漁業においては、広域資源管理の取組として、月5日の休漁と1ヶ月の水揚げ日数18日以内に取り組んでいる。棒受網漁業においても、資源管理計画において、月5日間の休漁に取り組んでいる地区がある。
エテルナ・ワコー株式会社 代表取締役	海域毎に許可隻数、操業海域等が制限 年間60～72日以上(原則、月に4日以上)の休漁を実施
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	資源管理計画に基づき中・小型まき網では年間48日以上(原則、月に4日以上)、定置網では漁場毎に定めた期間の休漁を実施している。

3 (2) 各論に関する御意見

⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討

- 地域 ➤ 南西日本や境港等の関係地域、熊本県内の各地域
- 漁業種類 ➤ まき網漁業、棒受網漁業、機船船びき網漁業
- 関係者等 ➤ 市場関係者、流通関係者、煮干し等加工業者

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	ウルメイワシの流通実態について、そもそもニーズがある魚種ではないという理解であり、むしろウルメイワシの漁獲制限による主対象魚種の制限がかからないよう配慮すべき。そのため、ウルメイワシを主漁獲対象としていない漁業者に対しても十分に意見を聞くべきではないか。
島根県まき網漁業協議会 副会長	境港のまき網漁業関係者、流通・加工関係者。
九十九島漁業協同組合 理事	ウルメイワシの一部は、まき網漁業者自社の加工場や地元加工業者への煮干し加工原料として供給されていることから、煮干し加工業者へも意見を聞く必要があると思う。
天草漁業協同組合 副組合長	【カタクチイワシ】 八代海中南部海域及び牛深海域の小型まき網漁業 【ウルメイワシ】 牛深海域の棒受網漁業 【シラス】 八代海中南部海域の機船船びき網漁業
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	鹿児島など、南西日本で水産加工が盛んな地域において、まき網や棒受網漁業者、漁業者団体、流通加工業者等の意見を聞く必要がある。
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	本県では、ウルメイワシの多くは中・小型まき網漁業によって県内各地で漁獲され、漁獲物の一部は自社の加工場や地元加工業者への煮干し等の原料として供給しており、本県漁業者への意見聴取に加え煮干加工業者に対しても意見を聞く必要がある。

3 (2) 各論に関する御意見

⑦ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項 (1/2)

● 全体

- 資源評価のデータセットや地域別の漁獲量、操業形態を示しながら、資源評価の信頼性、不確実性、外国漁船の操業による影響ををわかりやすく説明すべき。
- クロマグロ、サバ類、マイワシ、マアジ等の既存TAC魚種と比較した資源評価の精度、信頼性の説明が必要。
- 沿岸漁業が採捕停止にならないような制度運用を保証して欲しい。
- TAC管理以外の管理手法についても説明して欲しい。
- 資源増大後の販売・流通についても検討が必要。
- シラス資源管理実施の有無を説明していただきたい。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	資源評価の詳細な説明、元となるデータセットの提示 TAC管理以外の有効な管理手法についての説明
島根県まき網漁業協議会 副会長	① 現在の資源評価の精度が十分に確保されているか否か。他の魚種に比べて活用するデータが少なく、精度に不安や不確実性があるならば、それを十分に説明するべきであり、今の評価で出された数字が絶対ではないことに触れるべきである。 ② 外国船による操業の影響。
野母崎三和漁業協同組合 代表理事 組合長	資源の増減は何故おきるのか、上振れした時の漁獲制限をどのように行うのか詳しく聞きたい。
九十九島漁業協同組合 理事	漁業者が納得して資源管理に取り組めるよう、韓国・中国も含めた漁獲の状況や資源評価について、分かり易く説明してほしい。また、混獲されることを念頭に、管理の在り方を教示願いたい。
天草漁業協同組合 副組合長	地域別の漁獲量、操業形態 シラス資源管理実施の有無を説明していただきたい。
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	沿岸漁業が採捕停止にならないような制度運用を保証して欲しい。 資源を増やしたあと、どうやってお金に換えるのか？(売れなければ意味がない) 冷凍冷蔵庫や製氷施設、流通加工施設など、10年後の資源増加や施設の老朽化に向けた施設整備に対する補助について、どこまで検討されているか説明してほしい。

3 (2) 各論に関する御意見

⑦ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項 (2/2)

参考人からの御意見	御意見の内容
エテルナ・ワコー株式会社 代表取締役	先行するクロマグロ、サバ類、マイワシ、マアジと比較した資源評価の精度、信頼性の説明が必要
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	数量管理を行うのであれば、漁業者が納得して資源管理に取り組めるよう、関係国による本系群の漁獲状況及び資源管理の措置状況を丁寧に説明頂くとともに、混獲の問題を踏まえた管理の措置方針を示してほしい。

3 (2) 各論に関する御意見

⑧管理対象とする範囲（大臣管理区分、都道府県とその漁業種類）

- 全体
 - ブロック管理よりも、漁獲タイミングがずれる地域も含めた管理が有益。
 - 単純に過去3年の漁獲実績(シェア)に基づき配分するのではなく、系群全体管理をイメージした対応が重要。
 - 系群が重複する地域は、両資源の来遊状況により、利用割合が変わるため、柔軟な運用を行って欲しい。
 - 長崎県では、ほぼ中型まき網漁業による漁獲であるため、マアジやサバ類と同様に、現行のTAC魚種の配分基準に準じたい。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	<p>資源変動や漁場形成を見た上で、特に突発的来遊があった場合に一時的にでも漁獲を中止、他地域では漁獲がなく、系群全体では超過の恐れがない場合に一部地区で漁獲を中止することがないよう、一律で算定年(過去3年平均)により調整するのではなく、系群全体管理をイメージした対応の方が重要ではないか。</p> <p>(留保枠の活用、枠の融通、交換など)</p> <p>水揚げのタイミングが重複する区域のみでのブロック管理よりも、むしろ漁獲タイミングがずれる地域も含めた管理の方が有益ではないか。</p>
島根県まき網漁業協議会 副会長	<p>まずは10年程度の都道府県別漁業種類別の月別漁獲量を示していただき、それを基に自らの立場での意見を考えたい(おそろく他の参考人も同様ではないだろうか)。</p> <p>浮魚類に関しては、魚群・漁場形成の偏りや変動が大きいので、単純に過去数年の漁獲実績のシェアに応じて配分するのではなく、変動に応じた柔軟な管理が可能となるような仕組みを考える必要がある。</p>
天草漁業協同組合 副組合長	<p>大臣管理区分及び関係都道府県の対象魚種主要漁業種類 (カタクチイワシ:中・小型まき網、ウルメイワシ:その他の網漁業)</p>
鹿児島県旋網漁業協同組合 理事	<p>鹿児島県のまき網漁業は、対馬暖流系群と太平洋系群の両方を利用しているが、県としては対馬暖流側に区分されている。その年その年の資源の来遊状況によって、対馬暖流側の資源と太平洋側の資源の割合が変わることを踏まえ、他県より一層柔軟な運用を検討してほしい。</p>
意見表明者の御意見	御意見の内容
長崎県	<p>長崎県では、ウルメイワシのほとんどを中型まき網漁業で漁獲しており、9割以上を中型まき網漁業で漁獲しているマアジやサバ及びゴマサバと同様の漁業種類組成であるため、配分基準は現行のTAC魚種に準じることとしたい。</p>

3. 本部会で議論する事項について

(3) そのほかの御意見

- 全体
 - 資源管理手法検討部会の開催地を参考人(関係者)の多い地域で開催すべき。
 - 資源評価結果の詳細版が公表されていないため、情報が十分に示されていない。
 - 課題が多い中でスケジュールありきでTACが導入され、管理が上手くいかなかった際は、今後、漁業者から協力が得られなくなることを懸念。
 - ウルメイワシの漁獲時期が変化している。
 - 漁業者の高齢化や後継者不足、燃油高騰、漁船減少が深刻である。

参考人からの御意見	御意見の内容
有限会社大興丸水産 漁労長	<p>当該資源の参考人がほとんど日本海側であるにも関わらず東京での開催ありき、ではなく、参考人の多い地域での開催をすべきではないか。</p> <p>資源評価の詳細版等が公表されておらず、情報が十分に示されていない段階でこのような議論や検討に入るのは拙速であり、漁業者の意見を十分かつ丁寧に聞いているとはいえないのではないか。</p> <p>現行のTAC魚種でも評価に関して課題のあるものが多い中で、それらよりも調査が進んでおらず、データ等が少ない魚種についてTAC導入がスケジュールありきで進められているように感じ、実効性について疑問がある。結果として管理がうまくいかなかった際に、漁業者等から今後資源管理に対して協力が得られなくなるのではないかと懸念する。</p>
天草漁業協同組合 副組合長	<p>カタクチイワシ及びウルメイワシが漁獲される時期が変化している。</p> <p>資源量が十分にある場合、最大限漁獲できるように数量管理を設定していただきたい。</p> <p>漁業者の高齢化及び後継者不足や燃油高騰による漁船の減少が深刻化している。</p>

3. 本部会で議論する事項について

(4) 御意見や論点のまとめ (案)

※検討部会における議論を踏まえ、
論点や意見は追加・修正される見込み

● 漁獲等報告の収集について

- 混獲や自社加工、市場を通さない直接取引があり、正確な漁獲量の把握が困難。正確な計量には漁業者や市場関係者等の負担が大きい。デジタル化による情報収集体制の構築や技術開発等も必要ではないか。
- 県内の情報共有や漁獲報告体制が未整備である。市場、漁業者、漁協、JAFICが一元的に管理、運用するシステムが必要。また、資源評価の制度向上のため、CPUEの把握等さらなる調査が必要。

● 資源評価について

- 資源評価のデータセットや地域別の漁獲量、操業形態を示しながら、資源評価の信頼性、不確実性、外国漁船の操業による影響をわかりやすく説明すべき。
- クロマグロ、サバ類、マイワシ、マアジ等の既存TAC魚種と比較した資源評価の精度、信頼性の説明が必要。
- 資源増大後の販売や流通についても検討が必要。
- イワシ類の資源量の変化により、他魚種の資源量にどのように影響するのか教えていただきたい。

● 資源管理について

- TAC管理以外の管理手法についても説明して欲しい。
- 主漁獲対象魚種の操業に影響が出ないように、毎年一定水準以上のTACが担保されるシナリオや初めは緩やかな管理とし、回復してきたら徐々に強めるようなシナリオ等、漁業現場の意見を取り入れた漁獲シナリオとすべき。
- 各海域での30年間の漁獲実績及び漁獲努力量の推移を考慮すべき。
- 漁獲量の年変動や地域間の差異が大きいことを考慮した柔軟な管理制度が必要。また、配分数量の融通や留保の再配分が迅速にできるなどの枠組みが必要。
- TAC導入については、資源評価の精度、信頼性、漁獲特性、TACの運用方法等に課題があり、様々な議論を深め、現場への丁寧な説明を求める。現時点では議論が尽くされていないと認識している。
- 気候変動等による資源の増減に合わせて、資源管理目標の柔軟な見直しができるようにすべき。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- 意図しない混獲により、操業停止とならないように国の留保を設定し、迅速な追加配分等柔軟な運用をして欲しい。
- シラスを資源評価及び資源管理に考慮するべきか。シラス資源管理実施の有無を説明願う。
- 現状、中国・韓国の漁獲量が考慮されていない資源評価の精度・信頼性に懸念。資源評価の精度向上のため外国漁獲量の把握や調査の拡充を行うべき。

4. 今後について

新たな資源管理の検討プロセス

①	資源評価結果の公表	<ul style="list-style-type: none">令和3(2021)年3月に神戸チャート公表令和3(2021)年9月に将来予測を含めた結果公表
②	資源管理手法検討部会	<ul style="list-style-type: none">令和3(2021)年12月に開催参考人等からの意見や論点を整理
③	ステークホルダー会合 (資源管理方針に関する検討会)	<ul style="list-style-type: none">②で整理された意見や論点を踏まえ、具体的な管理について議論必要に応じ、複数回開催し、管理の方向性をとりまとめ
④	資源管理基本方針の策定	<ul style="list-style-type: none">③でとりまとめられた内容を基に、資源管理基本方針案を作成パブリックコメントを実施した後、水産政策審議会資源管理分科会への諮問・答申を経て決定
⑤	管理の開始	

本日はここ